

『VIEW next』高校版・2024年度「発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践」授業デザインシート

【教科・科目】	数学・数学A
【分野・単元】	図形の性質・円の性質
【テーマ・作品】	
【設定時数】	全4時間のうちの2時間目
【単元の目標】	

時数	学習内容	自校の生徒の特性を踏まえた 各時間における教育目標 (身につけさせたい資質・能力)	左記の資質・能力の 「学力の3要素」への 分類	授業の大まかな流れ	授業における3つの視点の学びに対する指導内容・教師の配慮			育成を目指す資質・能力の 評価方法
					主体的な学び	対話的な学び (教師による場づくりへの 配慮)	深い学び (教師による思考の活性 化・深化への 配慮)	
1	学習計画を立てる。	学習内容を体系化する。 学習の見通しを持たせる。	思考力 判断力 表現力 主体性 多様性 協働性	・章の導入時、シンキングツールを使って、グループごとに学習内容を分類・整理した。その成果物をTeams内のアプリケーション「Whiteboard」に集約していたため、再提示をする。 ・教科書を読み、本単元「円の性質」での学習内容を把握する。(何を求める問題か、どんな問題を解決するための定理か) ・6つの学習項目を3回の授業で学ぶための計画を立てる。	本単元で学習するすべての内容を載せた教材を配布。 3回の授業で学習を完成すること、定期試験で自身が目標とする点数に到達する計画になっているか繰り返し確認をする。	目標達成・計画実行するために、誰の力を借りようとしているか、生徒の様子を把握する。グループの場合は共通の計画で進めようとしているのか、周囲との対話がない生徒には、教師も支援することを伝える。	学習内容の全体を把握することで、知識を体系化する。	○思・判・表 →3回分の学習計画を立てることができたか、提出物により評価する。 ○主・多・協 →計画作りに困る場合は対話により解決しようとしているか。また、計画作りが自主的にできた場合は、自身の計画を他者にシェアしたり、助言をしているかを。生徒観察により評価する。
2	6つの定理の成り立ちについて理解を深める。 自身の学習計画に基づき、演習に取り組む。	数学的な見方・考え方を育成する。 自身に適切な教材・学習方法を選択する。	知識 技能 思考力 主体性 協働性	・定理の成り立ちについて考えを深めるための一つの視点をテーマとして提示。6つの定理を分担し、ワークシートを用いて、グループ学習により定理に対する1つの結論を導き出す。発表をし、教師がコメントすることで、担当外の定理に関しても、考え方を獲得する。 ・自身の学習計画に基づき、本時の学習目標を立てる。 ・プリントを用いて、学習を進める。 ・自己評価、他己評価をし本時の評価をする。 ・「わかったこと」「わからないこと」を付箋にまとめ、次の時間の学習予定を見直す。	自身の計画に沿った学習を進め、生徒本人がレビューすることで、残り2回の学習イメージを持たせる。 生徒のプリントは回収し、教師側も進捗を把握する。	グループワークに関する全体説明の時間を短くし、課題の内容について生徒が協議し理解する時間を確保する。 演習では教え合いが発生するよう、生徒の理解度を細かく確認。生徒どうしを繋げる。	グループで発表するワークシートに記載する結論は、正しさよりも、生徒オリジナルの表現を歓迎する。	○自己評価 ○他己評価 ○課題の取組数 ○学習意欲(質問した回数) ○他者貢献(周囲に教えた回数)
3	自身の理解度に応じ、基礎問題・発展問題を選択して演習する。	自身に合った問題解決の方法を考える。	知識 技能 思考力 主体性 多様性 協働性	・自身の学習計画に基づき、本時の学習目標を立てる。 ・プリントを用いて、学習を進める。 ・生徒の進捗を見て、発展問題を提示する。 ・模範解答と別の解き方を発見した生徒の考え方をシェアする。 ・自己評価、他己評価をし本時の評価をする。 ・次の時間の学習予定を見直す。	計画通りに学習が進むよう生徒観察、または進捗の確認と本時の予定を口頭で個々に確認する。	課題の取組状況をよく観察し、学び合い・教え合いが発生させる声掛けをおこなう。配布した教材にないレベルアップ問題(教科書の章末等)を提示し、対話を促進する。	生徒独自の考え方を積極的にシェアする。	○自己評価 ○他己評価 ○課題の取組数 ○学習意欲(質問した回数) ○他者貢献(周囲に教えた回数)
4	単元のまとめ	学習した内容の全体像を自ら表現し、自学自習に繋げる。	知識 技能 思考力 表現力 主体性 多様性	・プリントの解きなおしを行い、単元の復習をする。 ・確認テストをおこなう。 ・確認テストの復習によって、学習内容をまとめる。	自身のプリントを振り返ることにより、学習活動を強化し、自学に活用できる教材にする。	相互に説明し合い、理解を深める。	だれでも理解できる資料を作成することにより、思考を整理する。	○自己評価 ○他己評価 ○課題の取組数 ○学習意欲(質問した回数) ○他者貢献(周囲に教えた回数)
5								
6								